

議 事 録

(平成 28 年度 第 1 回総合教育会議)

日時：平成 28 年 7 月 13 日（水）

11:00～12:20

会場：市長室

出席者 笠岡市 市長 小林嘉文
笠岡市教育委員会 教育長 浅野文生
教育委員 廣井滋季 谷 喜一郎 三谷信恵 石井啓式
事務局 福尾教育部長ほか

同席者 笠岡市 副市長 岡本裕也

事務局 それではただ今より、平成 28 年度第 1 回笠岡市総合教育会議を開会いたします。

開会に当たりまして、小林市長から御挨拶をいただきます。

小林市長 （市長挨拶）

事務局 ありがとうございます。続きまして、浅野教育長より御挨拶をお願いいたします。

浅野教育長 （教育長挨拶）

事務局 ありがとうございます。

引き続きまして、議事に入らせていただきます。

本日の議事は「小中一貫教育について」でございます。お手元の資料の 1 頁をお開きください。小中一貫教育の推進について、小林市長からの御提案がございますので、事務局から御説明させていただきます。

（小中一貫教育について資料に基づき説明）

小林市長 私から少し補足をさせていただきます。コンセプトは福尾部長が説明したとおりです。現在の第 6 次総合計画が平成 29 年度までで終わります。このため、平成 30 年 4 月から第 7 次総合計画をスタートさせなければなりません。私は、その第 7 次総合計画に 3 本柱を提案しようとしています。一つ目が、この義務教育学校、二つ目が笠岡駅周辺の再開発、三つ目が大型の住宅開発です。

大型の住宅開発は、馬飼・広浜の周辺に現在県道が整備中で、里庄

のあたりもアンダーパスが建設中ということで、笠岡市が所有する市営住宅のうち使われていないものを数か所解放して不動産開発しようと考えています。加えて、馬飼・広浜周辺或いは入田・篠坂周辺も現在県道が整備中ですので、福山市の坪生との連携でそのあたりも住宅開発して福山或いは倉敷、里庄、浅口との連携を深めていこうと考えています。

笠岡駅周辺の再開発は、現在のマルナカがある土地をマルセン開発という不動産屋が所有していますが、後ろ盾となっている笠岡信用組合がそこを建て替えるという計画を持っています。そこに笠岡市も便乗させていただいて、市役所や議会の機能を或いは市民病院、図書館といった行政の機能をそこに集約して総合庁舎を建ててはどうかという提案です。

そうすると、現在の市役所や議会がある約一千坪の土地が空きますので、合わせてそこも不動産開発をしようと考えています。そうすることで笠岡駅周辺の北と南を開発しようとしています。このたび地鎮祭を行いました、来年の春には住吉港の待合所が新しくなります。そことマルセン開発が持つ土地と笠岡小学校までの一帯を一本の線で繋ごうとする考えで、その繋ぎ目となるのが笠岡駅なので駅の南口を造っていただこうとJRと協議を進めています。笠岡駅の南口を造ることによって南北の人の流れをスムーズにし、市役所や議会の機能、或いは市民病院や図書館といった行政の機能を南口に移すことによって、人の流れを南にも誘導し、島から来た人たちも病院通いが楽になるようにしていきます。

ただし、そうなると北口の人口減少に繋がる可能性もありますので、モデル的に笠岡小学校のある場所に小学生から中学生が学ぶ義務教育学校を設置してはどうかという提案をさせてもらっています。これによって、住吉港までの間が一本で繋がることになり、人を呼び込む器がさらに強化される計画です。笠岡小学校は元々江戸時代に町民の子どもたちが通っていた「敬業館」という学校があった場所です。笠岡市民のアイデンティティを復活させる意味でも「敬業館」という名前を是非復活させていただいて、小・中一貫の義務教育学校の名前を「敬業館」にしてはどうかという提案もしています。

そうなりますと、笠岡西中学校区の子どもたちの一部、つまり笠岡小学校区の中学生在が「敬業館」に通うことになります。そうすると、

今の笠岡小学校の生徒が230名程度ですから、笠岡西中学校の笠岡小学校区の子どもたちが100名程度ですので、ここの学区だけ考えると330名程度になります。

資料には1学年 70 名でお願いしていますので、小・中一貫校にすることにより、応募すれば笠岡小学校区以外の子どもたちも笠岡市内の子どもたちであれば来ることができるわけですから、自分の子どもを是非義務教育学校で学ばせたいということであれば、来ていただけるような条件にしてはどうかと考えています。

そこで問題となるのが、周辺の中学校在生徒を取られてしまうということがあり得るわけです。例えば今は、笠岡小学校区で小・中一貫校というコンセプトですが、場合によっては、笠岡西中学校区で小・中一貫校ということも十分検討できるのではないかと思います。一体型でやるのか、小・中を分けてながら義務教育学校をやるのか、色々と考え方はあると思います。笠岡西中学校へ今井から或いは大井からも通ってもらって、西中そのものを小・中一貫校にする考えもあると思います。そのあたりを今後、皆様と御議論いただきながら、或いは第三者組織を作っていただいて色々協議をいただき、意見交換をしながら進めていきたいと考えております。

義務教育学校のコンセプトは6・3ということではなくて、4・3・2に分けたり色々な仕組みを作りながら、しっかりと地元根差した地元を愛する郷土愛を育むような教育を一貫して行っていくことで、それが最大のねらいです。

皆様の御意見を聞きながら進めていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

事務局 それでは、委員の皆様から御意見、御質問等をいただければと思います。
 よろしくお願いいたします。

廣井委員 平成 23 年度から保幼小中連携教育を進めて来て、私が思うようなスピードではありませんが、徐々に実を付ける段階に来ているのではないかと思います。ですので、この資料にも書いてありますが、連携教育については是非進めていただきたいと思います。

ただし、市長の所信表明或いは市議会での答弁を聞いていると、学力に特化した有名校を作っていくと言われていたと思います。この点については、少し違うのではないかと思いますし、賛成できません。

また、補足説明の中で笠岡小学校区の中だけで小・中一貫校を考えるのではなくて、笠岡西中学校区の中で考えることも選択肢にあるということとし

た。そうすると、駅を挟んで北と南が結ばれるという構想もぼやける感じがしますし、笠岡小学校がある場所では敷地の広さを考えると物理的に無理があるのではないかと思います。

小林市長 学力に特化した有名校を作るという考えで文科省の審議官の先生と何度か話をさせていただいて、政府の考える義務教育学校を理解する中で、私自身少し考え方を変えまして、もちろん学力は付けていただくのですが、35人のクラスで副担任を付けてはどうかと考えています。クラスの中には落ち着きがない子どももいますので、そういう子どもには副担任がしっかり付いて対応することで底上げができると思います。また、勉強ができる生徒は担任の先生がしっかりと引っ張って学力を付けさせる。つまり、35人学級に副担任を付けることによって、全体的な底上げが期待できます。それを上手く千鳥や他の進学校に繋げていくことも大事なコンセプトではないかと思います。

ただし、それだけだと結局、東京や大阪の大学に行ってそのまま帰って来ないというケースになってしまいますので、何とか帰って来てもらうためには、9年間の中で島に行ってキャンプをすとか北川で田植えをすとか色々な体験学習をする、或いは笠岡市にある企業に行ってどんな仕事をしているのか自分で見に行ってみるとか、そういうことを学習の中に取り入れることによって、笠岡に対する郷土愛が育まれるような教育をしっかりとやっていかないと、文科省の指導でもありますし、私自身の考え方を改めた点でもあります。なかなか笠岡には残ってくれないだろうなと思います。

それから、笠岡工業高校には毎年160人程度の卒業生がいますが、大学進学が10人程度、残り150人程度が就職しています。これに対して700社の求人募集があるそうです。そのうち笠岡市内の企業への就職は20人程度だそうです。後は、福山、倉敷、その他の所に就職しています。結局、笠岡以外の所に人を取られています。だから、笠岡にしっかりと仕事を作るということも大事だし、笠岡から通うとか、できるだけ笠岡から動かないという教育もしていかなければならないと痛切に感じています。

そういうことから、先ほどお話しした義務教育学校のコンセプトは、そうあるべきだと考えています。ですから、学力を上げて有名学校を作るという考えは毛頭ありません。

それから、人数に関しては現在1学年70人で考えていますが、もちろん中学生が入るとなると笠岡小学校の色々なサイズでは間に合わなくなりますし、校舎を建てたりすることも必要だと思います。校舎を建てるにはどう

いった並びが必要だとか、或いはここに入るのかという意見は確かにありまして、今後詰めていかなければなりません。場合によっては人数をもう少し減らして50人とか40人にしてやってみるということも十分あり得ることだと思います。

それから、そこに選挙管理委員会が入っている建物がありますが、それを「敬業館」にくっ付けてもいいのではと考えています。そして、私たちは駅の南側に移動しますので、ここも空いてしまいます。ここも合わせて「敬業館」にしてもいいのかなという思いもあります。そのあたりは、臨機応変に考えていこうと思います。中学生が入ってくると校舎や体育館は、やはり建てなければいけないと思います。野球部などの部活動もありますので、そうなると例えば、西中に小・中一貫教育学校があるとすれば、野球は西中でやって、サッカーはこっちでやるという協力関係もあっていいのではないかと思います。そのあたりは、臨機応変にやっていきたいと思います。

石井委員 小・中一貫校を作って笠岡市に愛着を持ってもらうということのようですが、どうして小・中一貫にすると笠岡市に愛着を持ってもらえるようになるのか、私には少し分かりにくいのですが。

小林市長 まず、中学に上がるときのハードルがなくなります。つまり、同じ仲間がそのまま9年間ずっといる訳ですから、友人関係、結束力を形成する環境が整います。

次に、現状は中学校に上がったからそこから新たな3年間がスタートし、先生も変わります。また、授業方針も変わります。小・中一貫校は9年間でやることによって、例えば4年間で義務的な小学校教育を終えたとして、5年生から中学1年までの3年間は、例えばALTの先生を副担任に付けて英語教育を身に付けるとか、或いは地元の郷土史を理解している先生を副担任に付けるとか、そうすることで地元との交流を深め、郷土愛を育むような仕組みを作り、最後の中学2・3年生と同じ8年生、9年生では、進路を考えることになりますから、地元の企業で職場体験をしてみたり、社会の構造がどのようなになっているのか理解してもらえようような授業を取り入れたり、カリキュラムを9年間で組める訳ですから、ある程度自由に組めるということです。

石井委員 そうした中で、ふるさとのことについて色々と説明していくとか、そういうことをどんどん取り入れていくということでしょうか。

小林市長 そういうことです。

谷委員 当初、市長さんの答弁等々は笠岡小学校を中心に西中学校を分割するよう

な形のお話だったと思います。我々は今まで子どものことを考えて、せめて中学校はクラス替えができる環境の中で育てたいという思いがあったのですが、もし西中学校を分割して笠岡小学校に特化して、そちらに重点的に予算を投入するとなると大井小学校や今井小学校の子どもたちが不利益を被ることになるという思いが私にはあります。ですから、連携教育を強化して笠岡西中学校区の中でもう少しやってみてはどうでしょうか。そして、次の段階でもう一步踏み出して小・中一貫校にしてはどうでしょうか。

小林市長 笠岡駅周辺の再開発をするという意味は、福山とか倉敷とかの人口を吸収したいということです。小学校の低学年の子どもたちが笠岡駅から降りて、ここに通ってもらわなければなりません。或いは、倉敷市の人がここに住居を構えてもらって、市民になってもらって、ここに通うようにしたいのです。笠岡の駅前のロケーションと 200 年、300 年という歴史のある「敬業館」の名前を使うことによって、十分に福山、倉敷、或いは岡山県内の子どもたちが笠岡に住んでくれる、笠岡市に移住してくれる需要が十分にあるのではないかと思います。笠岡市の中で子どもたちを取り合うのではなくて、外から人を引っ張って来ることが十分可能性があるという思いから、まず最初の小・中一貫校は笠岡駅から近くて歴史のあるこの場所が良いと思います。十分売りになると思います。

谷委員 私の意見と違うのですが、人を呼び込むために教育を売りにするよりも、もっと子どもたちのことを第一に考えていただきたいと思います。

私は笠岡市全体の教育のレベルアップを考えていただきたいと思います。1 校だけに特化してそれを上げたら全体が上がるという、その部分は理解ができません。ですから、それぞれの学校に副担任や支援員の先生方をしっかりと配置していただいて全体のレベルを上げていく。

それと平成 23 年度から連携教育を強化しています。こちらをもう少し強化していただきたいと思います。

それから、義務教育学校は小学校と中学校と両方の教員免許が必要なはずですが。そうなると対応することが直ぐにはできないのではないかと思います。

小林市長 その点は、文科省がサポートしてくれまして、教員確保について後押しをしてくれています。その点のハードルは徐々に下がっています。

谷委員 でも、小学校と中学校と両方の教員免許を持っている人は少ないと思います。

小林市長 同じ校舎の中に中学校の免許を持っている方と小学校の免許を持っている方がいるということですか。

谷委員 いいえ。義務教育学校は小学校と中学校の両方の教員免許が必要だったと思います。いずれにしても、私としては笠岡小学校だけを手厚くするのではなくて、義務教育学校を設置するのであれば笠岡西中学校区で考えていただけないかなと思います。

小林市長 私の言い方によって誤解を生んだかもしれませんが、子どもの出生数も300人規模を維持していたものが今や270人程度に減少しています。今年から来年には間違いなく笠岡市の人口は5万人を切ります。

一番大事なことは、国が1千兆円の借金を抱えていて今後国からの交付金もどんどん減ります。笠岡市の主な財源である市税も平成21年度に81億円あったものが今年度は68億円です。国からの交付金も自分たちの主要な財源である市税も減少しています。そのような中で自分たちができることは自分たちでやってねという時代を迎えつつあります。それに対して、国が義務教育学校だったらサポートしますよと言ってくれています。それを笠岡市に一つ作ろうと考えています。どんなに影響があるか私自身も予想ができないところもありますし、父兄の方々がそれを理解していただく、或いは支持していただく素地があるかどうか心配です。ですから、国からお金をもらってきて市内のすべてを小・中一貫校にするということとは言えません。

そこで、税金を将来納めてくれるようなポテンシャルティーのある人材を育てるという意味でも、外から人を引っ張って来て少しでも人口を増やすような方向にもがかないと笠岡の人口も税収も減る一方です。

そうするとインフラも維持できなくなります。市道や上下水道などは市の責任において維持していかなければなりません。今後、島の水道の維持費に40億円から50億円を掛けていかなければなりません。ですから市としてもインフラを維持するためには、できるだけ稼がないといけない事情がある訳です。勉強もしっかりしてもらおう、郷土愛も育みながら尚且つ帰って来てもらってしっかり仕事をして税金を納めてもらおう。そういう循環を何としてでも作らないといけないのです。悩んだ末のことなのです。しっかりと、ここで勉強してもらって郷土愛を育んでももらえれば、福山からも倉敷からも人が集まって来るかもしれないのです。そして、私たちが駅の南に行った後のこの場所を不動産開発してもらって、ここをマンションにしようと思っています。そうすれば、そのマンションから目の前の小・中一貫校に通わせようという福山市民が現れます。何しろ駅から近いですから親御さんが向こうにいてもしょっちゅう行き来できますし、そういう意味での利便性がここにはあるのです。これが笠岡西中学校では非常に距離感が出てきます。

谷委員 私が申し上げているのは、西中学校を分割してしまうと本来2クラスできるところが1クラスになって、子どもの関係が固定化してしまう問題です。我々が統廃合を考えたときも、固定化してしまうよりも、もっと流動性がある中で社会性を身に付けてもらいたいという思いからでした。今回、小・中一貫を考えると、中学校区すべてで考えていただけるなら、まだ納得ができますが、それを分割して恩恵を受ける子どもたちと不利益を被る子どもたちが出てくるのは如何なものかという思いがあります。

小林市長 谷さん、ちなみに今井小学校は48人、大井小学校は222人です。そして、西中学校の笠岡小学校区の生徒を取ると200人になります。

谷委員 そんなにならないでしょう。

小林市長 西中は今277人です。取るのは100人程度ですから、170から180人ということです。

谷委員 この資料によると平成33年度は108人になっていますよ。108人ということは1学年1クラスかなと理解したのですが。

小林市長 平成33年度ですか。

谷委員 はい。平成33年度を見据えて。

小林市長 平成28年度現在は、西中学校は277人です。基本的にここから100人程度が笠岡小学校に通うことになります。

谷委員 市長さんの構想の中では、大井小学校の子どもたちの10%は笠岡小学校に行くということですから、それによりますと平成33年度は108人になっていますので、1学年1クラスになると思います。

小林市長 このコンセプトは、「敬業館」の1学年を70人でやると仮定すると70人掛ける3学年で270人になるということです。一つの考え方としては市内から人を集めて1学年70人程度で2クラスできるのが良いと考えていますが、60人で2クラスとか、50人で2クラスも可能だと思います。

私も西中の生徒をどんどん減らす方向にいくことが良いことだとは考えていません。

谷委員 そこは重要なところですね。だんだん生徒が減ってきている中で、さらに分割して生徒数を少なくすることは問題があると思います。

小林市長 そこで、前向きな統合という意味で今井小学校と大井小学校の子どもたちに西中に来てもらって、西中学校を9年制の小・中一貫校にしましょうという、つまり笠岡西中学校区の中に2つの小・中一貫校を作るというコンセプトにしたなら、統廃合に否定的な保護者の方も納得していただけるのかなと思います。

廣井委員 そうしたとしても、平成 33 年度からはもう 1 学年 1 クラスです。特に小
学校は今井小学校と大井小学校を合わせても 1 学年 1 クラスなので、9 年間
1 学年 1 クラスでずっと同じ仲間ということです。

小林市長 ここでは「敬業館」を 1 クラス 35 人の 2 クラスという前提で 70 人という
計算にしていますが、「敬業館」は笠岡小学校区のそのままでいきますと言
えば周りの学校はそんなに生徒が減らないと思います。

廣井委員 そうなると、教育格差が問題になります。笠岡小学校区で 1 学年 1 クラス
25 人の小・中一貫の義務教育学校を作ったときに、市の予算を投じて副担任
を付けたら、その学校だけが手厚くなります。他の学校はどうするのですか。
35 人学級のままですか。副担任も付いていません。そういう状況が教育格差
として市内に生まれます。

小林市長 まったくおっしゃる通りです。だから、70 人にして 35 人は笠岡小学校区
の子どもたちに来てもらって、残りの 35 人は広く公募する訳です。最初に
そういうコンセプトで考えました。そすると取られてしまうというから減ら
しましょうかということになった訳で、議論としてあっても良いということ
を私はお伝えしているのです。

小・中一貫教育が良いという親御さんには広く門戸を開きます。ただし、
予算の都合もありますので賛成していただいても全部を一度に変えること
はできません。だから、「敬業館」或いは笠岡西中学校区で上手くいけば、
それを今度は金浦でも北川でも、或いは大島でもやっていこうじゃないかと
いうのが私の考えです。

三谷委員 初めて小・中一貫校の教育を耳にしたのが議会の討論の時でした。私たち
教育委員が何も知らないのに、どうして市長さんと副市長さんは堂々と何を
おっしゃっているのだろうと正直驚きました。新しい教育委員会制度の弊害
ではないのでしょうか、少し不愉快に思いました。以前の統廃合の時も、市
長さんと協議をした後にプレス発表する形だったと思います。

私は保護者の代表としての委員なので、たくさんの友達から色々な意見を
いただきました。大抵は、「今度、笠岡小学校に新しく建物ができるの？要
らないよね。」のように皆さんそんな感じです。しかし、今日は頭を真っ白
な白紙の状態にし、変な邪心を取り除いて市長さんのお話を聞こうとここへ
やって来ました。

ですが、正直に申し上げて 9 年間の小・中一貫校を作るメリットやわくわ
く感がまったく感じられません。今の学校でも十分に郷土愛を教えています
し、教えることもできるし、副担任を付けていただければこのままで副担

任を付けていただいて、もっと県知事さんに掛け合っていていただいて本採用の先生をもっと引っ張ってきていただく交渉もできるし、何億もお金をかけて建物を造ってまでやるほどのことでもないと思いました。

そして、市長さんですから、企業も誘致しないといけないし、駅の南側の開発もしないといけないし、やりたいこと考えられていることがたくさんあるのはよく分かります。よく分かりますが、この通りを一続きにするために、笠岡小学校を「敬業館」にして、何故何億ものお金をかけて建物を建てて人を呼ばなければいけないのでしょうか。最初は市外から人を呼ばないのかなと思いました。福山や倉敷から人を呼び込むとおっしゃったので申し上げますが、小・中一貫校が笠岡にあるから笠岡に引っ越して小・中一貫校に行こうとは思いません。これが、笠岡に中・高一貫校があって、東大、京大などの難関大学を目指しますというのであれば、或いはこれからそういう学校を作るのであれば、ちょっと行ってみようかなという気持ちになるかもしれません。みんな家から通える距離で近くにおじいちゃんやおばあちゃんがいるそばで学校には通いたいと思っています。ですから、遠くから人がやって来ることは、あまり期待されない方がいいと思います。ここにマンションができたとしても、お年寄りの方が多く入居すれば、子どもたちはそれほど増えないと思います。9年間に何かお金を掛けてするようなわくわく感、ドキドキ感、目新しいことが一つも感じられません。まだまだ何か言っていないと、じゃあやりましょうとか、それは良い考えですねと思う気持ちになりません。

それから、「敬業館」という名前ですが、私は他所から嫁に来たので昔そういう立派な学校があって笠岡の方にはアイデンティティのようなお気持ちがあるんだろうなとは思いますが、それに拘られる市長さんの熱量ほど私たちは思っていない。

それと、笠岡に就職できる企業をたくさん誘致していただきたいとは思いますが、子どもに笠岡に就職しないと夢がないというのは違うと思います。例えば、キャビンアテンダントになりたくて、ANAに勤めたかったら東京に行かないといけませんし、野村証券に勤めたかったら全国転勤があって全国を回らないといけません。子どもは将来なりたい仕事を目指して夢を持って勉強しているのだから、9年間の地域教育で引っ張って大学を出たらどうしても笠岡で働かないといけないという市長さんの強い思いと違って、私は、子どもはもっと若い間は旅立って夢を持って仕事をすればいいという考えを持っています。たぶん、平成30年度からスタートする第7次総合計画に

載せないといけないから、焦っていらっしゃるのだと思いますが、私たちから見るとついこの間、急にこの話が出てきたばかりなので、まだまだ慎重に審議をしたいのです。小・中一貫校が駄目とか、一切しないということではないのです。もっと慎重に協議や審議をさせてくださいというのが正直な気持ちです。

小林市長 まず、所信表明の件ですが、これは私の所信表明なので私が勝手に言えます。別に誰に相談している訳ではありませんし、市役所の職員に相談している訳ではありませんし、私が市民の民意を得て市長に当選して、こんなまちにしたいですということを勝手に言えるんです。知らなくて当然です。私が勝手にしゃべっていることです。そこから、議論がスタートしたのです。それで市議会の人たちが質問する。それに答える。私が勝手に答えただけです。私の思いを伝えているだけです。

三谷委員 勝手にいいのですね。

小林市長 私の勝手にいいのです。それで、今回が第1回目の議論になる訳です。ここからスタートしていただければいいのです。首相の所信表明と同じです。それで、私の思いが伝わらなくて駄目になることも十分あります。それは、しっかり議論していただきたいと思います。これはお分かりいただけましたか。

三谷委員 分かりました。

小林市長 それから、今のままで結構だということですが、そして、何故変えなければならないのかということですが、御存じと思いますが、岡山県の学校のレベルが非常に低いのです。小学校でいえば全国で28位、中学校では41位です。笠岡市は岡山県下では15市中8位、6位ということで全国的に言えば笠岡市の教育レベルは非常に低い方に属しています。でも、私は順位を上にあげることを目標にしている訳ではありません。ただ、この結果は分かりやすい指標だということは間違いありません。

人を集めるときの指標としては分かりやすいと思います。一生懸命勉強しています、郷土愛を育みましたと言ってもそれを点数で表すと一番分かりやすいじゃないですか。十分皆さん郷土愛を持っていますと言っても、じゃあどの程度かと言われたら、なかなか表現しにくい部分があります。

どういう表現ができるかというと、実は笠岡は転入・転出量で10年間すべての市に負けているまちです。これで、郷土愛を育んだことになるのですかと言われると、ちょっと私も困るのです。

人口が55年間減り続けているまち。これも大人たちがしっかりと郷土愛

を持っているのかと言うとこれも説得力に欠けます。55年間のうち一度だけ大井ハイランドができた時に少し増えただけで、後はずっと減り続けています。昭和35年に北川村と一緒になった時に笠岡市は一時7万3千人になりました。福山が10万人、笠岡が7万3千人でもうすぐ福山を追い抜くだろう、福山と同じくらいのまちになるだろうと言われていましたが、結果は福山が45万人都市になって、笠岡が5万人をもうすぐ切ろうとしています。人数が多いから良いとか悪いとかという議論はしたくありませんが、まちの豊かさで言うと、国道が片側2車線か1車線か、或いは人が持っている資産の価値がいくらであるとか、何十年も福山市民の方と何十年も笠岡市民の方と資産価値がまるで変わってくるなど、こういったものを一つ一つ重ねていったときに、幸福度は何で測られるかというのは難しい問題ですが、やはり自分の資産がどんどん膨れて嫌な人はいないと思います。

笠岡市は残念ながらどんどんシュリンクしていくまちになっています。昨日のことですが、真鍋島に住んでいる人からこんな質問がありました。『子どもを病院に連れて行くのに一回どれくらい掛かるか知っていますか。病院代は子どもは無料です。皆さんも無料でしょう。でも、私は6,000円余分に掛かるんです。この状況を市としてどうお考えですか。』という質問がありました。それに対して、補助金もあげられない。豊かなまちは間違いなく補助金を出します。でも私はそれができない。お金がないのです。市としてはそういう方々にもしっかりとスポットライトを当てて豊かな生活を送ってもらうための義務があります。

他にも、この辺に住んでいる人だけではありません。遠くに住んでいる人もいっぱいいます。北川のお百姓さんが病院通いをするのに片道3,500円のタクシー代を払っています。これに対して1円も補助ができない。バスもない。井原は100円バスがあります。浅口市はバスが無料です。笠岡市はその方に片道3,500円のタクシー代を払ってくれと言っているのです。市としては、そういった人たちにもスポットライトを当てなければいけないのです。でも、お金がないからできないのです。

ですから、子どもたちに帰って来てもらって、もちろん、キャビンアテンダントになりたい人は、なっていていただいて結構です。ただ、笠岡にもしっかりと仕事を作らないといけないし、ここに仕事があれば子どもが両親と一緒に住んでお孫さんがいてそれで面倒を見ることができるのです。そういったスキームを私は作りたいのです。

でも今は、仕事がないからできないのです。みんな仕事があれば帰ってく

ると言っています。仕事の内容は何でもいいのです。鉄でもいいし、繊維でもいいのです。月に 20 万円から 30 万円をもらえれば十分両親と暮らせるという思いの人も圧倒的に多いのです。そういう人たちのために仕事も作らないといけない。そして、教育もしっかりしなければいけない。そこから出ている話がここに繋がる訳です。

やはり、様々なバランスの中でこういう提案をさせていただいている訳です。教育委員会の中でもしっかりと議論していただければ私もありがたいです。正直、私もわくわく感はありません。ただ、やらなければいけないことは、しっかりやっ払いこうという思いで提案させてもらっています。

もう少し経てば、わくわく感が出てきます。人が集まって来ますから。

三谷委員
小林市長

集まって来るのは、企業を作ってからですか。

二つあると思います。企業があつて人が集まる場合と住みやすいから集まる場合です。企業があつてもここが住みにくいまちだったら、ここに住まずに福山や倉敷から通ってきます。それは困るのです。笠岡市を支えているのは住民税と固定資産税です。これらを増やさないといけないのです。だから笠岡に仕事があつて、住宅が買えて、水道代を下げた他のまちと同じくらいにして、教育レベルもしっかりしているというように、住みやすい環境づくりをしないと人は集まって来ないです。仕事だけあつても集まって来ないです。

岡本副市長

ちょっと私からもよろしいですか。三谷委員さん、良いアドバイスをさせていただきありがとうございます。やっぱり、わくわく感というのは非常に大事だと思います。どのように教育の在り方を考えて、わくわく感を作っていくかというのは非常に大事だと思います。

もう一つおっしゃられたのが中・高一貫です。親御さんたちは、どこの大学を目指すのかということを大事に考えておられます。今、笠岡高校のレベルも少しずつ下がって来て、定員割れも起こしている状況です。ただ、これは市ではできなくて県なので、そこはお願いしていこうと考えています。

私も元々笠岡ではなくて千葉県のパ市に住んでいました。そこで肌で感じたのが、千葉県の柏市、流山市、松戸市は人口を奪い合っていて、競うように新しい施策を打ち出しています。その中で一番効果があるのは、親御さんが教育のきちっとしている所に移動したいということで、例えば柏市では中・高一貫を始めました。すると、倍率が 12 倍とか 13 倍になって一気に人が流れて来ました。やはり教育というのは大事で、親御さんは子どもを第一に考えての移動なのです。そういう移動は起こり得るということです。

もう一つ、色々な新しい展開を持った施策を考えています。これは早ければ早いほど移動の効果があり、遅れると逆にどんどん流出の傾向にあるので、やるなら早い方が良いということです。今、せっかく連携教育を進めていますのでその一つの流れだと思います。先ほど、格差が出るのではないかとのお話もありましたが、一気にやってしまうと本当にこれで良かったのかと悩むところもありますので、まずはちょっとやってみて、本当に良いということであれば、徐々に市内全域に広げていけば良いと思います。例えば、神島外では英語の教育課程特例校指定を受けて英語を強化しています。そのことで市内の英語教育に差が出たかという、たぶんそうではないと思います。良いところは何かということを見つけるためにモデル校を作っていると思います。そういうやり方はこれまでもやっています。色々やっていく中で後戻りするところもあると思います。人口移動だけでなく、わくわく感や親御さんとか子どものことを第一に考えて、どういう教育の在り方が望ましいのか議論できれば良いと考えています。

小林市長 中・高一貫校という考え方はもちろんありますが、義務教育ではないということと、やはり子どもの頭が柔軟なうちに笠岡に対する愛着とか郷土愛を育む方が良いのかなと思いますし、中・高になるとどうしても大学進学を目指して勉強が優先されますので、政府もそのあたりがあって、小・中一貫教育を奨励していると私は理解しています。勉強ということではなくて、郷土愛というものを守っていききたいものにしているのだと思います。

岡本副市長 おそらく何もやらないと笠岡の人口はどんどん減っていくと思います。あらゆることをやってみるというのは大事だと思います。

当然、市長の思いだけで話が進むということはないので、こういう場で議論したり、市民の方々の意見を聞いたり、親御さんの意見を聞いたりする中で決まっていくものだと思います。

事務局 お時間も経過しております。何か他になればこのあたりで会を閉じたいと思います。

浅野教育長 では私から一つだけ。学力テストの点数と順位は、あくまで指標と考えています。この指標は必要だと認識しています。ただし、点数や順位にあまり左右されますとそれが目的に変わってきてしまいます。目的に変わってきってしまうと学校現場がその目的に沿って動くようになって、間違った行動を起こすようになります。これが一番怖い訳です。

ですから、そのところは上手く抑えながら、笠岡の教育レベルは高いねと言われる状況にはしていきたいと思います。

先ほどから、笠岡の教育レベルは低い低いと言われると、私も教育長として辛い辛いという思いで聞いておりますけれど、30年も掛けて現在の状況になったものを5年やそこらで直ぐ回復する訳がないということも思っておりますので、そこはお互いに必死になって学校現場は取り組んでいます。このことはお互いに共通理解をしておきたいと思いますし、ICT機器の活用によって確かに変わってきています。

連携教育は、元々は中一ギャップというものがあって、連携教育をしっかりと進めましょうというものでした。一貫教育も同じです。それに加えて連続性とか発展性とか系統性とか、そういったものを持たせて、さらに縦の繋がりや社会性も育てていくような意味が相まって小・中一貫教育という国づくりの中で一つの教育施策として出てきたものです。最終的には人づくりですから、人づくりを根本において上手く進めていかないと、やっぱり教育は失敗が許されないと思っていますから、慎重に進めていくべきところは慎重に進めていかなければならないと思います。反省するべきところは反省しながら前に進んでいくという考え方でやっていきたいと思っています。

教育委員会は合議制の執行機関ですから、教育委員さんが『これでよし』というところへ向かわないと私どもとしては前に動けないというのが現実です。今日の会議を大切にこれから後の方向性を探りながら、また市長と話す場面も作っていただきながら、良い方向を目指していきたいなと思います。

小林市長 これはどんな時間軸でやっているのですか。2か月か3か月に1回ですか。

浅野教育長 いえ。必要に応じてです。

小林市長 昨年度は何回開催されましたか。

浅野教育長 4回です。

小林市長 こういう小・中一貫校の話も出てますし、できればもっと緊密に意見交換をさせていただければと思います。私たちも色々と準備をしていきますので、一步一步確認しながら進めさせていただければと思います。よろしくお願いします。

事務局 ありがとうございました。本案件につきましては、本日はこれで終わりとさせていただきます。

次に、「その他」でございますが、お時間もございませんので特にとすることがなければ、本日はこれで終わりにさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

委員等 (はい)

事務局 それでは、これもちまして平成 28 年度第 1 回笠岡市総合教育会議を閉
会いたします。お疲れ様でした。